



クローズアップ2

進む 子どもの安全教育

平成30年6月に発生した大阪府北部地震から5年を迎えようとしています。市では、地震の教訓を風化させることのないよう安全安心な学校づくりの取り組みを着実に進めています。

今号では、子どもの安全を守る3つの活動「安全教育」「安全管理」「組織活動」のうち、安全に関する資質や能力を子どもが身に付けるための安全教育について紹介します。

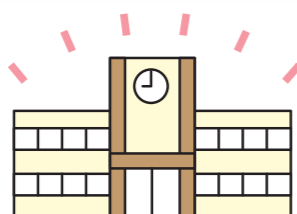
問合せ 学校安全課 / TEL674-7627 ID 066277

子どもの安全を守る 3つの活動



安全教育

子どもたち自身が、自分の命と周囲の安全を守り抜くことを学ぶ



安全管理

学校内や登下校時などにおける安全確保



組織活動

学校を中心に、保護者、地域住民、事業者、警察など関係機関が協力して、学校の安全活動を支える

副読本「たかつき安全NOTE」を活用しています

市は、安全教育の質と量の両面から充実を図るため、オリジナルの副読本「たかつき安全NOTE」を作成し、令和4年度から市立小・中学校の授業や日常指導で活用しています。



特徴1 生活、災害、交通安全が1つに

学校で学ぶ安全には「生活安全（防犯）」「災害安全（防災）」「交通安全」の3つの領域があります。全ての領域を対象とした副読本を自治体が独自に作成するのは、全国的にも例を見ない取り組みです。1冊にまとめることで、各教科などで指導する内容との連携を図りながら、計画的に安全教育を展開することができます。

生活安全（防犯）

学校・家庭など日常生活で起こる事件・事故など



災害安全（防災）

地震や津波、風水害といった自然災害など



交通安全

さまざまな交通場面における危険と安全、事故防止など



特徴2 発達段階に応じた学びができる

「たかつき安全NOTE」は、子どもの発達段階に応じて学ぶことができるよう、小学1～3年生用、小学4～6年生用、中学1～3年生用の3種類があります。9年間継続して、系統的・体系的に安全教育を展開することで学びを深めます。

災害安全を例に見てみると・・・

小学1～3年生

地震発生時の対応や火災時の避難、強風および大雨の際の危険性、避難所への避難の仕方など

小学4～6年生

本市で予測される地震災害のほか、地震、水害・土砂災害ハザードマップ、避難所での生活などについて学びを広げる

中学1～3年生

防災情報の入手・活用方法や避難情報の内容など、より具体的に、また周囲の安全や助け合いなど、共助の観点も

特徴3 高槻の地域性を盛り込む

子どもが実感をもって学ぶことができるよう、本市の地理的特性や児童生徒に関連する安全の取り組み、過去に被害をもたらした災害など、高槻の地域性を盛り込んでいます。

その他の取り組み

校区安全マップ

小学校の幹線通学路上の危険箇所を掲載した安全マップを小・中学校それぞれの校区ごとに作成。学校での安全教育や家庭での指導に活用するほか、セーフティボランティアにも配布し、子どもたちの見守り活動に生かしています。



避難訓練

毎年計画に基づき、自然災害や火災、不審者の侵入などを想定した避難訓練を実施。教職員が教室にいないタイミングで地震が発生した場合など、実態に即した想定を盛り込んだ実践的な訓練にも取り組んでいます。



どんな授業かレポートします

「安全」という教科はありませんが、各教科の内容と結び付けたり、特別活動の時間に学習したりしながら、計画的に安全教育に取り組んでいます。寿栄小学校6年生の特別活動取材しました。

学習のめあて

避難所で自分が協力できる行動を考えよう

冬に水害が発生。水道、ガス、電気が使えず、食料も届かない中、1週間避難所で生活することになった場合、自分が協力できる行動は何か考えてみよう。



▲副読本にもヒントが



6年生の特別活動 テーマ：避難所の生活

より安全安心な学校へ SPSの取り組み

ID 004804

セーフティプロモーションスクール（以下、SPS）は、生活安全・災害安全・交通安全の3領域で、安全な教育環境づくりに組織的、継続的に取り組む学校を認証する制度です。

本市では、学校安全の活動を総合的に進める先進的な施策として、SPSの認証取得を目指した取り組みを進め、令和3年3月に寿栄小学校で認証を取得しました。

第三中、芝生・丸橋小 認証を取得

令和3年4月には、寿栄小学校のある第三中学校区をモデル校区に指定し、寿栄小学校での取り組みや研究を踏まえながら、第三中学校、芝生小学校、丸橋小学校に取り組みを拡大。学校・地域・保護者・消防などの関係機関が連携しながら取り組みを重ねてきました。その取り組みが認められ、今年2/22に3校全てで認証を取得しました。

避難所生活では誰が何に困る？



「長引く避難生活を想像してください。どんな人が、どんなことに困っているでしょうか」。先生の問いに、子どもたちは考えます。たかつき安全NOTEなども参考にしながら、一人で考えた後、隣の児童とペアになって考えを交換。その後クラス全体にも共有します。

「ストレスがたまる人がいそう」「赤ちゃんを育てている人が大変そう」など、具体的なイメージが膨らんできました。次に、なぜ困っているのか、どうしたら解決できるのか、より考えを発展させていきます。

どうしたら解決できるかな？

例えば「赤ちゃんを育てている人」について、「家から持ち出した物を共有する」「母親に確認してから面倒を見る」など、意見ができました。

ストレスが強くなる災害時の避難所では、助け合いながら過ごすことや配慮が必要な人に手を差し伸べることが大切だと子どもたちは感じ、最後に「自分には何ができるのか」を考え、クラス全体で話し合いました。



自分に協力できることは？

「私は人と話すことが好きだから、話し相手になれる」「小さな弟がいるので子どもの面倒なら見られる」。人によって協力できることは異なります。避難所での生活をイメージして、自分が協力できることを考え、学びました。



児童インタビュー

今までどんなことを学んだのか、普段気を付けていることなどを聞きました

佐川健太郎さん

地震や風水害から身を守る方法を学びました。自分の家が低いところにあるので、もし川が氾濫したら、高いところに逃げます。普段の登下校では端を歩いたり、低学年の子に声掛けをしたり、事故に遭わないよう気を付けるようになりました。



葉山永愛さん

不審者訓練では、あやしい人が入ってきた時の行動を周りと協力して実践しました。災害が起こった時は自分だけでなく家族のことも考えることが大切。弟が赤ちゃんなので、弟に合わせる行動をしたいです。



高松涼教諭（学校安全担当）

安全教育では、子どもたちが知識を身に付けるだけでなく、自分ごととしてとらえて行動を起こせるようになることを目標としています。例えば、非常持出袋には何を準備すればいいか学んだ後に、各家庭で実際に必要なものは何かまで考えます。学んだことを実践するには、日々の準備と自発的に行動を変化させることが重要です。ぜひ家庭でも子どもと安全について話し合ってください。



芝生小学校での事故対応訓練

取り組み成果 市全体に普及・継続へ

今後、第三中学校区の活動で得られた成果やノウハウを他の校区に普及することで、市内の全小・中学校で学校安全の充実に取り組んでいきます。